前回会議（令和6年7月5日実施）における資料及び意見の整理について

1 資料

※資料1～3は過年度実績報告および過去資料再掲、資料7は名簿のため割愛した。

※用語を省略表記している（ペットボトル→PET、プラスチック製容器包装→プラ）。

(1)資料4

資料名	ごみ収集頻度等見直し実施後の環境負荷等に関する効果検証について
記載内容	平成31年4月制度変更の効果検証の令和2年度～5年度実績分の追加実施稼働車両台数・車両走行距離・環境負荷削減効果・ごみ量の4項目
要 点	<p>▼稼働車両台数 びんは稼働台数が増加。PET・プラ・缶は稼働台数が減少した。</p> <p>▼車両走行距離 増加した。</p> <p>▼環境負荷削減効果 削減効果はなく、CO2排出量は増加した（車両走行距離増加の影響）。</p> <p>▼ごみ量 プラが3%、びん・缶が10%以上減少したが、ペットボトルは7%以上増加した。</p>

(2)資料5

※用語を省略している（燃やすごみ→可燃、燃やさないごみ→不燃）

資料名	市ごみ排出量の推移（収集頻度等見直し前後5年間：平成26年度～令和5年度）	
記載内容	可不燃、粗大、危険・有害、資源物について、平成31年4月収集頻度等見直しを境にして前後5年間（平成26年度～令和5年度）の計10年間のごみ排出量をグラフで表現し増減率を表記した。	
要 点	10年間のごみ排出量の変化の特徴は4種類に分別された。	
	特徴	該当する分別品目
	1 コロナ禍以前から減少傾向であり、コロナ禍以後も再び同様の減少傾向を示したもの	可燃（市収集）・不燃古紙・びん・缶
	2 コロナ禍の影響を大きく受けたもの	可燃（民間搬入）
	3 平成31年4月の制度変更以前から増加傾向にあり、制度変更後も引き続き増加したもの	粗大ごみ ペットボトル
	4 上記3種類にあてはまらないもの	危険・有害ごみ プラスチック製容器包装

(3)資料6

資料名	ペットボトル資源化量の増減率（平成25年度を基準に令和4年度と比較）
記載内容	東京都の基礎自治体におけるペットボトル資源化量について、平成25年度実績を基準として令和4年度実績と比較した。東京都区市町村清掃事業年報及び一般廃棄物処理実態調査を活用した。
要 点	ペットボトル収集頻度は週1回・月2回・その他の3種類に分別されたが、資源化量の増減との相関は見られなかった。全体的な傾向として収集頻度にかかわらず資源化量が増加していた。

2 意見

ペットボトル収集頻度に対する意見等について、主たるものを議事要録から抽出して分類した。

	分類	内容
1	毎週収集	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の方から、(ペットボトルの) 処理への需要があるということであれば、市としてはそれに応えないといけないという立場もあるのではないかと思います。
2	隔週収集	<ul style="list-style-type: none"> ●ペットボトルの収集頻度が) 隔週であることは、大きいサイズのペットボトルの購入等の工夫をするといった排出抑制効果があるため、私は隔週で十分ではないかと考える。 ●今まで隔週で頑張ってきた市民のムードが沈んでしまうのではないかと。毎週収集は便利であるが、慎重に考えたいと思う。 ●ペットボトルの収集が隔週になって5年が経ち、ようやく市民が慣れてきたところで毎週収集にするのは疑問である。 ●私が住んでいる自治体では、びん・缶・ペットボトル (の収集) は隔週で、随分長く続いているので不便に感じない。
3	店頭回収 (拠点回収)	<ul style="list-style-type: none"> ●店頭回収の推進を行う方が、経費の面でも効率的なのではないかと。 ●市の収集にせず店頭回収を活用するかが肝心ではないかと。ポイント付与のある回収機は消費者にはありがたいものだと思う。 ●店頭回収を推進すればよいのではないかと。収集頻度は、隔週でよい。 ●ペットボトルはかさばって保管しづらいことが厄介なのではないかと。店頭回収を行っている店舗が近所があればよいが、店舗のない地域の住民のためにペットボトルの破砕機を設置してはどうか。破砕機でペットボトルをコンパクトにし、回収してもらったり業者に売ったりということを検討してもよいのではないかと。
4	公約	<ul style="list-style-type: none"> ●市長が市民の方の思いを酌み取って当該公約を掲げたことは理解できたが、これはあくまで「市長と接点のある市民」からの意見ではないかと。 ●そもそも市長は公約を掲げて選挙で当選をしている ●先ほど「市長の意向で」という話があった。しかし、市長は公約を掲げたうえで民主主義に基づいた選挙で当選したという事実がある。
5	その他	<ul style="list-style-type: none"> ●使用済みペットボトルをめぐる国内の状況は、私も委員を務めた「武蔵野市ごみの在り方等検討委員会」(以下、「在り方等検討委員会」) が開催されていた6年前とは大きく変わっている。 ●収集頻度を下げると排出抑制が効いて(排出量が) 減少すると思っていたが、ペットボトルについては収集を隔週にしたことの効果があまり出ていない ●ペットボトルの流通量は減りづらく今後も増加するのではないかと。 ●(収集の) 頻度を減らすという方法でペットボトルの使用量を削減するための啓発をしたが、それで市民にすごく不便がかかっていたり、2週間貯めることで結局今まで以上出しているというのであったりというようであれば、(収集の) 頻度に関係なく結局啓発が浸透していない。